

2023年
5月

南風

ふれあい南伊豆ホスピタル

第237号

● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていただける為の支援をすすめています ●

編集・発行 医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル 〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510

「うつ病」について

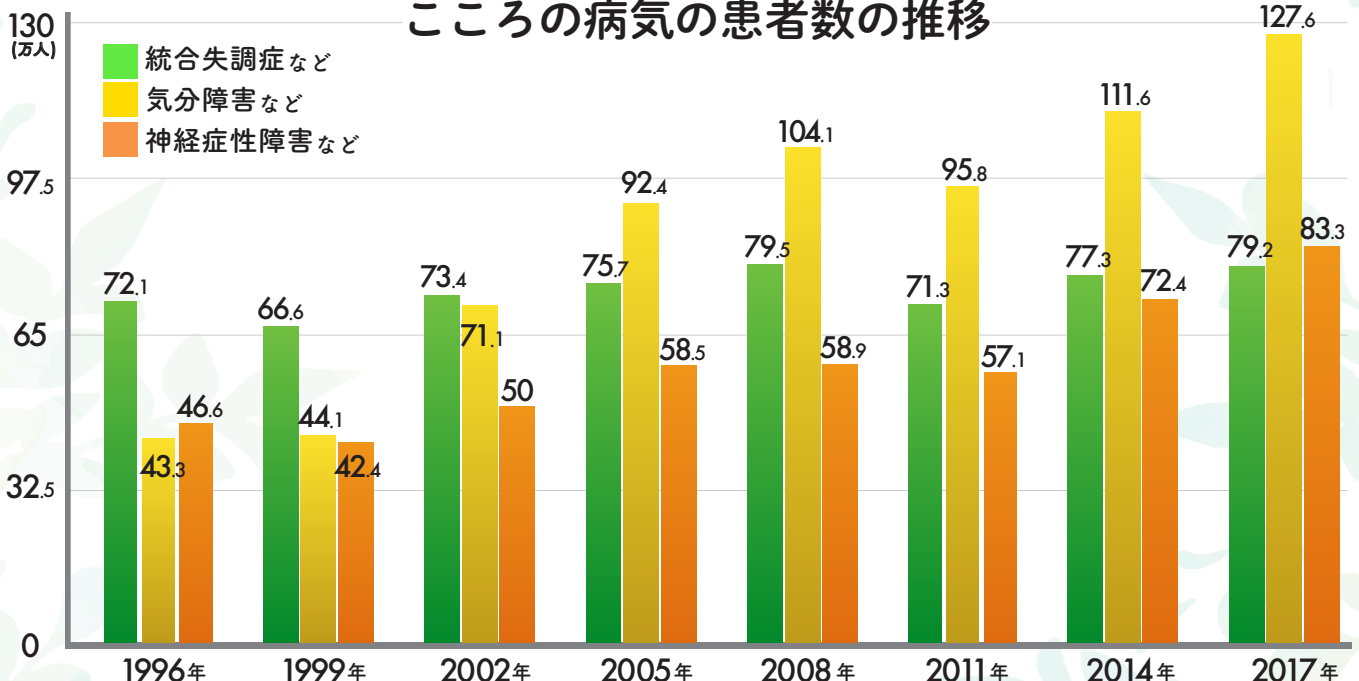
医師：内山 彰

現代はストレス社会です。そのような中で「気分が落ち込む」、「やる気がでない」、「何をやっても面白くない」、「イライラして落ち着かない」、「だるくてしかたない」、「食欲がない」、「眠れない」などの悩みを抱えている方は多いのではないのでしょうか。たいていの場合は一晩寝れば回復すると思います。しかし中には長引くこともあり、「なまけている」、「気合いが足りない」などと言われてしまうことがしばしばありました。

しかし実はこれらは「うつ」の可能性がります。うつのうち、軽度なものは「適応障害」と呼び、中程度以上のものを「うつ病」と呼びます。適応障害はストレスから離ればそのうち自然に回復しますが、うつ病は放っておかれると重症化して自殺に至る危険性もあります。

WHO（世界保健機関）の研究によると、全人口の3%がうつ病とされています。これを日本にあてはめるとうつ病患者は360万人いる計算になります。が、日本におけるうつ病をはじめとする気分障害の患者は、厚生労働省の調査では平成8年で43.3万人、平成29年で127.6万人となっています。つまりうつ病のうち、実際に心療内科や精神科を受診する方は氷山の一角ということになります。残りは人知れず、一人で悩むか内科を受診するケースが多いと考えられます。というのも、うつ病は自覚に乏しく、頑張りが足りないせいだと自分で思い込んでしまうことも多いからです。また、うつ病患者はここ30年で3倍に増えています。これは疾患そのものがストレス下社会で増えたこともありますが、うつ病が社会で認知されてきたのが大きいと思います。治療も薬物療法、認知療法等どんどん進化してきています。思い当たる方は気軽に受診してみてください。

こころの病気の患者数の推移



出典：厚生労働省発表 平成30年度版厚生労働白書「こころの病気の患者数の状況」図表1-2-9

● 新年度を迎え、生活や職場環境が変わった方も多くと思います。
なかには、まだ新しい生活に慣れることが出来ずに大変な思いをしている方も
いるかもしれません。気分の落ち込みや食欲不振、不眠などが2週間以上続く
場合には、うつ病の可能性を考えて受診してみてもいいでしょうか。
当院の診察は原則予約制となっておりますので、まずはお電話にてお問い合わせ
下さい。



TEL.0558-62-1461

診察時間 9:00~15:30 ※予約終了まで
(月曜日は 10:00 ~)
当日受付 7:30~11:30
水・土・日曜、祝日は休診です



外来診療のご案内

月	火	水	木	金
内山	望月	休診	望月	望月



マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようになりました。

(従来の健康保険証も引き続きご利用頂けます)

当院受診の際に、マイナンバーカードを保険証として使用するには、受付に置いてあるカードリーダーに(顔写真がある面を上向きにして)マイナンバーカードを置いて、認証を受けて下さい。
ご不明な点がございましたら、受付のスタッフまでお声かけください。

マイナンバーカードを健康保険証として使うことで、下記のようなメリットがあります。

- ご本人が同意をすれば、初めて利用する医療機関でも薬剤情報等が医師と共有できるようになります。
- 高額療養費の手続きが簡素化されます。以前は手続きが必要で、申請が間に合わない場合は自己負担での一時的な支払いが必要でしたが、マイナンバー保険証が利用できる医療機関では、限度額以上の支払いは不要となります。
- オンラインで医療費控除がより簡単にできるようになります(マイナポータルをe-Taxに連携すると、医療費控除が自動入力されるようになりました)。

※マイナンバーカードを健康保険証として使う場合には、事前の申し込みが必要です。利用の申し込みには、医療機関や薬局の顔認証付きカードリーダー、マイナポータルサイトやセブン銀行のATMをご利用下さい。(当院のカードリーダーでもお手続きをすることができます)。個人情報漏えいのリスク等がありますので、マイナンバーカードの置き忘れや紛失には十分ご注意ください。

参考：厚生労働省 HP (https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08277.html)

文：藤田 真咲(精神保健福祉士)



子どもの健やかな成長を願う鯉のぼり。最近は見かけることが少なくなったような気がします。

ふれあい南伊豆ホスピタル
☎ 0558-62-1461



2023年5月発行 Vol.237

【監修】山本 善治

【構成・編集】藤田 真咲

【デザイン】F&Y

【作業協力】支援センターふれあい

利用者の皆さん

ふれあい南伊豆ホスピタル

広報委員会

